

冠動脈 CT 検査

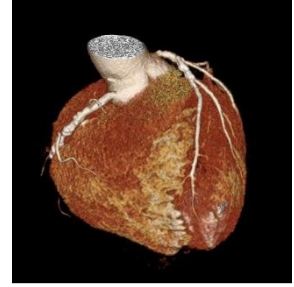
冠動脈 CT 検査の登場で、今まで心臓カテーテル検査でしか分からなかった冠動脈の走行および狭窄病変を評価することができるようになりました。心臓カテーテル検査と比べ、低侵襲で体の負担が少ない検査です。当院では、冠動脈 CT 検査の結果、より詳細な心臓カテーテル検査および治療が必要と判断した場合は、高次施設(より専門的な病院)へのご紹介となります。なお、この検査は治療後の冠動脈の状態を経過観察する際の検査としても活用されています。

また、冠動脈 CT 検査は、低侵襲であることを活かし、検診や人間ドックなどのスクリーニング検査(異常を見つける検査)に活用されます。今は症状がなくても、将来的に狭心症や心筋梗塞を起こすリスクが高いかどうかを評価することが可能です。更に、造影剤を使ってまで検査をしたくない、もっと簡便に心疾患のリスクを知りたいという方々へ、単純 CT で検査可能なカルシウムスコアのご紹介をします。詳細は健診部へお問い合わせください。

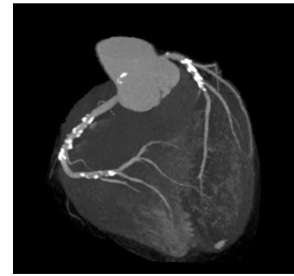
【カルシウムスコア (Agatston Score)】

冠動脈の動脈硬化がどれほど進行し、石灰化を伴っているかを表す指標として、カルシウムスコア(Agatston Score)というものがあります。**これは造影剤を使用しない単純 CT で評価可能です。**カルシウムスコアの数値が高い程、今後 10 年以内に心筋梗塞や心疾患による突然死を発症しやすくなると考えられています。また、高血圧、糖尿病などの心臓病リスク因子にカルシウムスコアを加えることでより正確に心臓疾患を予見することが可能となります。検査の結果によっては、追加検査(運動負荷心電図、冠動脈 CT、心臓カテーテル検査など)の指標となります。

(参照：慢性冠動脈疾患診断ガイドライン、米国心臓病学会、米国心臓協会)



冠動脈 3D



MIP(白いのが石灰化)



カルシウムスコアレポート

利点

- 心臓カテーテル検査と比べ低侵襲で短時間で検査可能。
- 心臓の情報以外にも胸部～上腹部の情報も得られる。
- 入院の必要がなく外来で検査が可能。
- 冠動脈の狭窄だけでなく、石灰化や動脈硬化の程度を評価することが可能。

欠点

- 造影剤アレルギーがある方は検査不可。(カルシウムスコア検査は可能(造影剤不使用))
- 腎機能が悪い方は検査ができない場合がある。
- 冠動脈の石灰化が強い場合や脈拍が不安定な方は、診断の精度が悪くなる場合がある。
- 心臓カテーテル検査と同様に、造影剤による副作用の可能性や放射線被ばくがある。